

平成29年度のトピック

<ねらい>

- 四国の木材供給量の15%程度を占める国有林を活用し、民有林と連携し、木材の安定供給、コストの低減、新技術の導入等により、林業の成長産業化と地方創生に取り組む。
- 多様で貴重な自然を有する国有林を地域の皆様と連携し、保護林の設定、シカ被害対策等により保護・管理をするとともに、レクリエーションの森等の観光資源や憩いの場として活用する。

<トピック>

- **林業の成長産業化に向けた国有林からの木材供給の増加**
 - ・ 利用期に入った人工林を循環利用するため、主伐・再造林を推進。
 - ・ 立木販売36%増（16万m³→22万m³）、丸太販売3%増（17万m³→18万m³）。
- **伐採から再造林までのトータルコストの低減**
 - ・ 伐採から植付までの作業の一括発注により、2～3割のコスト削減を目標。
 - ・ コンテナ苗の利用による植付効率の向上。
 - ・ 成長の良いエリートツリーの導入による下刈の省力化。
- **ICT、ドローン等の新たな技術の導入**
 - ・ 28年度末に新たにドローン20機を導入し（計29機）、シカネットや境界の巡視を実施。
 - ・ ドローンや360°カメラによる画像情報を、立木販売の際の公売情報として活用。
- **地元自治体と連携した山地災害対策の着実な推進**
 - ・ ドローンを活用した山地災害の実態把握等により、地元自治体への災害時の支援を実施。
 - ・ 平成28年度の山地災害危険地区の見直しに対応し、国有林の山地災害危険地区情報を地元市町村に提供。